

ロゼ

文化情報誌 ロゼ
ROSÉ THEATRE
ART INFORMATION OF FUJI CITY
CULTURE MAGAZINE ROSÉ

VOL. 46 2004



ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 2004年1月発行(第46号)
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416-0953 富士市蓼原町1750番地 TEL(0545)60-2510(代)
企画・編集・製作 (財)富士市文化振興財団事業課企画広報係 株式会社アドシップ



子供と音楽の素敵な出会い

ピアニスト 仲道郁代

少女時代、ルービンシュタインの弾くショパンのレコードを、毎日のように聴いていたという仲道郁代さん。「もう、ほとんどルービンシュタインばかり、繰り返し。まるで刷り込みのように」と懐かしそうに笑う。今や日本を代表するピアニストとして、多忙な毎日を送る中、仕事を離れると、「一児の母でもある。子供に素敵な音楽を聴かせたいと願う気持ちは、世のお母さんと同じ。今回、三月にロゼシアターで開催される小さな子供のためのコンサート「星のどうぶつたち」について、また、子供と音楽との素敵な出会いについてお話を伺いました。



「星のどうぶつたち」はどんなきっかけからお作りになったんですか？

幼稚園くらいの頃って、とても感受性が豊かですよ。感覚がとても開かれていて、いろんな刺激に対して、すごく敏感に反応する。時には大人以上に、物事に集中したりもします。そんな何か真っ白なキャンパスのような時期に、純粋な音や音楽にふれる経験は、とても大事だと思うんです。今、日本中でこれだけたくさんコンサートがあるのに、未就学児が入れるものは、あまりないでしょう。私も娘が幼稚園くらいの頃、何か聴かせよう、連れていこうとしても、なかなか見つからなかった。見て、踊って、歌ってというのなら、たくさんあるんですけど、もっと純粋に音、音楽を聴いてもらうコンサートというのは、やっぱり少ない。それで、何か小さい子供たちのために音楽を伝えたいな、と思って始めたのが「星のどうぶつたち」なんです。



「星のどうぶつたち」は、仲道さんのピアノと語りによるファンタジックな物語。主人公のマーちゃん（実は仲道さんのお嬢さんがモデルだとか）が、空想の中で星のどうぶつたちをつかまえて冒険の旅に出る。田中カレンさんの叙情的な曲と、ひなたあつこさんの暖かいイラスト。そして、みゆぐちかずみさんの、幻想的なお話。これらすべてが融合した美しい作品です。

「音楽」「言葉」「絵」それぞれのバランスには特に気を遣われているようですね。

まず音聴いてほしいということを中心に考えています。物語もストーリー展開の面白さで、興味を惹きつけるというものではなくて、音を聴く前のイメージ作りの言葉、例えば「ゴロゴロ」だとか「ゴツゴツ」とかピアノの音楽に結びついていく言葉が、お話の中にちりばめられているんです。絵にしても、それ自体がどんな変わっていったり動いたりするのではな

く、あまり説明的なものでもない。やっぱり音楽を聴くイメージを広げるための存在なんです。お話も絵も、子供たちが想像力をいっぱい働かせながら、音楽を楽しめるように工夫しています。

後半は、完全にピアノだけのコンサートですね。

曲目や構成は、子供さんの年齢や、会場の様子によって、その都度変えています。それぞれ曲のイメージをつかまえますように、少したく作品の紹介をしながら何曲か演奏します。前半の「星のどうぶつたち」とあわせて約1時間。小さい子供の集中力を考えると、そのくらいがちょうどよいようです。

小さなお子さんが音楽に親しむために、親（大人）は何をしたらよいのでしょうか？

親御さんも一緒に聴いて、聴く、楽しむことが大事なんじゃないでしょうか。例えば一緒にCDを聴いたとしたら、聴きながら「すごくきれいな曲だね」とか「寂しそう

な感じだね」なんて会話ができますね。一緒に感動したりします。そういう時間が大切なんだと思います。一緒に聴いて興味を持つんです。親はテレビにかじりつきで、子供にだけ教育のためだからといって、音楽聴かせようなんていうのはダメ（笑）。子供は、親が音楽を楽しむ姿を見ながら、何かしら影響を受けるんですね。次第に興味を深めていく。そうやって子供を音楽に導いていくのが、一番自然でしょう。

そして大きくなったら、親子で色々なコンサートに足を運んでもらえたらいいですね。



そうになったら素敵ですね。ただ基本的にクラシック音楽というのは、成熟した大人の文化なんです。子供がバツと入っていきける世界かというところでもない。もちろんそこまでの道筋を開くことは大事なんです。まず私は、小さな子供たちが音

楽と出会う時に、音楽の持つ純粋な、本



質的な美しさを心でキャッチすることを一番に考えるんです。お父さん、お母さんは、お子さんのそんな心の動きを暖かく見守ってほしいし、私も演奏家として心に届くように、響くように演奏し続けていきたい。「星のどうぶつたち」を通じて、親子のコミュニケーションを深めていただければ嬉しいし、聴いてくれた子供たちが少しでも「音楽って素敵だな、楽しいな」と感じてくれたら何よりです。

リサイタルをはじめ、オーケストラとの共演、レコーディング等、常に意欲的で真摯な音楽活動を続けられる仲道さん。この「星のどうぶつたち」の他、クラシックファンを広げたいとの想いから始まった啓蒙プログラム「ゴメン！遊ばせクラシック」も好評です。今後の活躍から、ますます目が離せません。

小学生から楽しめます

仲道郁代 & 仲道祐子

ピアノ・デュオリサイタル

楽しいトークを交えたスペシャルコンサート



2004年3月13日 SAT

●開場 18:30 ●開演 19:00

■出演 仲道郁代(ピアノ) 仲道祐子(ピアノ)
■会場 中ホール
■入場料 全席指定 一般3,500円 学生1,750円

●演奏曲目
ボロティン/だったん人の踊り
エルガー/愛のあいさつ
ビゼー/カルメン・ファンタジー
ホルスト/「惑星」より「木星」(ほか)

3才~小学校低学年向き

星のどうぶつたち



今夜こそ、つかまえていこう。宝物の音符のボトルの中に、星のどうぶつたちをつかまえて。星のどうぶつたち(星のうた)より

2004年3月14日 SUN

●開場 10:30 ●開演 11:00 (約1時間のプログラムです。)
■会場 中ホール
■入場料 全席指定 おとな2,000円 子ども(3才~小学生) 1,000円

●プログラム
田中カレン:「星のどうぶつたち」より「星のうた」「やき」「こぎつね」「きりん」「うお」「りゅう」「ライオン」「はくちよう」他

■お求め・お問い合わせは
ロゼ・チケットセンター
(0545)60-2500

Handwritten signature and date: Naoto Ikumasa, 1 Dec 2003

山田 私はピアノの先生に憧れてましたね。
 (笑) 小学校の頃から、清水南高校に行きたくて。
西川 いやつ、私は最初から解ってました。
 (笑) 小学校の頃から、清水南高校に行きたくて。
山田 私はピアノの先生に憧れてましたね。
 (笑) 小学校の頃から、清水南高校に行きたくて。

**プロとしてお客さんを
楽しませる。(加藤)**
 最初に習った先生を見て、「ピアノの先生になりたい」と。
加藤 私も！
 今回皆さんに運営委員をお願いしています。先生に恵まれていたと思いますよ。
山田 先生に恵まれていたと思いますよ。
加藤 私も！
 今回皆さんに運営委員をお願いしています。先生に恵まれていたと思いますよ。



山田 琴未【ピアノ】 静岡県立清水南高等学校卒業。名古屋音楽大学音楽学部ピアノ専攻。ピアノを進充美、新村裕、矢高勝、岡崎悦子の各氏に師事。現在、自宅・リズム幼稚園ピアノ講師。クラシック協会会員。

MAYコンサートスペシャル「華」
 2004年 3月6日(土) 開場18:00 開演18:30
 3月7日(日) 開場13:30 開演14:00

●入場料(全席自由)／一般:1,000円 小・中学生:500円
 ●会場/ロゼシアター 中ホール

「MAYコンサート」の「MAY」は毎年5月に開催するからという理由と、「芽生」、つまり芽生えを意味しています。そして今回の「MAYコンサートスペシャル」のサブタイトルは「華」。これは、「MAYコンサートスペシャル」運営委員会で命名されたもので、芽生えから時を経て成長し、「華」を咲かせたいという出演者全員のメッセージが込められています。



加藤 聡子【ピアノ】 静岡県立富士宮東高等学校卒業。名古屋音楽大学音楽学部ピアノ専攻。ピアノを進充美、新村裕、矢高勝、岡崎悦子の各氏に師事。現在、自宅・リズム幼稚園ピアノ講師。クラシック協会会員。

**「これは私の使命だ!!」
としました。(西川)**

西川 参加して良かったですね。同じように音楽をやっている人たちが話ができるというところは、自分にとってすごくプラスになるし、なんといっても「MAYコンサート」を「自分たちで創っていく」と話をして、「これは私の使命だ!!」と思いました。しかもロゼシアターでの開催ですから。
加藤 正直、まだピンとこないですね。あまり経験もないから、まだ解らない部分も沢山あるし、自分で意見を出すのも上手ではないんですよ。でも、この運営委員はそれを鍛えるいい機会になると思います。それに、コンサートに出ることはあっても、自分で創る機会はこの先もそうないことだと思ってる。どんなコンサートにしようかと、みんなで決める楽しさもありますからね。
山田 私は卒業してからはずっと東京で仕事をしていますが、自分が生まれ育ったこの富士で、コンサートに出演させていたたいりもしています。だから、富士市で音楽をやっている人たちの繋がりを大切にしたいという思いもあります。それに、自分たちで解り合いながらコンサートを創っていくのって、素晴らしいことだと思ってる。

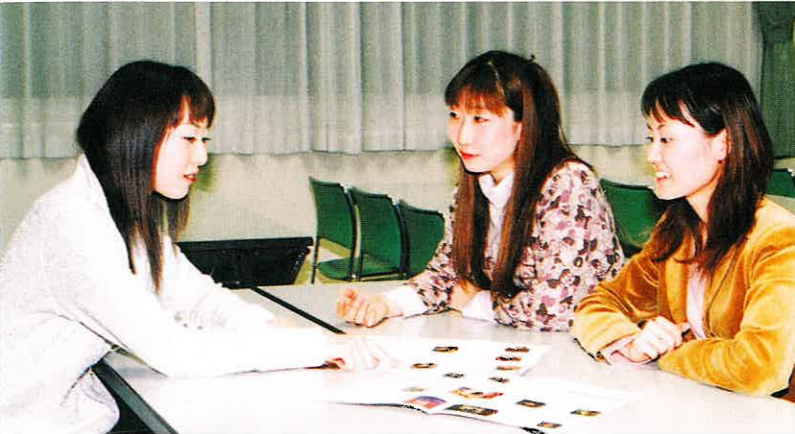
最後に「MAYコンサートスペシャル」を企画・出演するにあたって、どの様なコンサートにしていきたいか聞かせて下さい。また運営委員として、意気込みや抱負なども教えてください。
加藤 「MAYコンサート」は、学校を卒業して、初々しい感じのコンサートですが、スペシャルは「年齢を重ね、音楽にも、演奏にも深みがある」という人たちが集まり、2日間に渡りひとつのコンサートを開催するものです。私は卒業して2年目ですが、少しは成長した姿を披露したいですね。それに、自分より「技術的」にも「演奏的」にも優れた人たちが一緒にコンサートに出られることの素晴らしいですね。「MAYコンサート」の時は卒業したばかりのお客さんが温かく見守ってくれているような感じでしたが、今度は見守ってもらえるのではなく、プロとしてお客さんを楽しませることができたら良いと思います。
山田 毎年、若手の人が出てくる「MAYコンサート」を楽しみに見に来てくれる人もいます。まずは成長した自分を見て貰いたいですね。そしてお客さんあつての自分

たちだから、「MAYコンサート」の「スペシャル」という意味では、「MAYコンサート」よりも楽しんでほしいです。みんながまとまって、ひとつのことができたという感じですね。
西川 二人と同じですが、「MAYコンサート」に出たときよりも、今の自分がどう成長したのかをお客さんに見て貰いたいので、「MAYコンサート」のときもお客さんのことを考えていたつもりだったけど、2年前と今では絶対違うはずだから、そういう点でもチャレンジという感じですね。とにかくお客さんを楽しませたい。「聴いて良かった」「来て良かった」と、自然と体の中に入っていく、押し付けがましい音楽を聞かせたい。お客さんも出演者も「自然体」で、そこを大切にしたいですね。なにより言葉よりも音楽を聴いてください!!
 是非素敵なコンサートにしたいですね。今日はありがとうございました。



前回(1999年)の「MAYコンサートスペシャル」より

MAYコンサートスペシャル「華」
 Special Tak Session
 KOTOMI-Y
 x
 AYAKO-N
 x
 SATOKO-K



ロゼシアターでは、1992年から若手音楽家の育成を目的に、毎年5月に新人音楽家による演奏会「MAYコンサート」を開催してきました。これまでに、出演者は118名を数え、市民の皆様からも「MAYコン」の愛称で親しまれるほどになりました。そして今年度、ロゼシアター開館10周年記念事業として開催する「MAYコンサートスペシャル」は、歴代「MAYコン」出演者が企画・運営・出演する文字通りスペシャルなコンサートで、1999年3月の第1回目に続き2回目となります。そこで、第2回「MAYコンサートスペシャル」運営委員を代表して3名の方にお話を伺いました。

やっぱり「ピアノが好きだな」(山田)

2004年3月6日、7日の2日間で開催される、「MAYコンサートスペシャル」運営委員を代表して山田琴未さん(ピアノ)、西川絢子(音楽)、加藤聡子(ピアノ)の3人にお話を伺いました。
山田 最初は、親が「何か習い事」って感じで、4歳から近所の友達とヤマハの幼児科のグループレッスンに通っていました。みんなと一緒に歩くのがとても楽しくて、グループだから合わせたりするのもすごく楽しかったです。クラシックも少しやりましたよ。それからピアノの個人レッスンに移って、気が付いたら好きになっていったという感じですね。でも中学・高校は音楽以外のこともやってみたくて、中学校は器械体操、高校ではバドミントン部に入りました。それでも家に帰るとピアノが弾きたくなって弾いていましたね。でも、やっぱり部活も忙しくて、遊びたい時間も増えて、弾かなくなりました。いつかピアノを本格的にやり始めたのですか?
山田 高校2年の時ですね。進路を考えて、それまでずっとピアノは続けていたし、やっぱり「ピアノが好きだな」「弾くのが好きだな」と実感して、ピアノの道に。
西川 私も4歳からヤマハの音楽教室に通っていました。その年齢は、聴覚が飛躍的に発達する時期なので、音感や聴きとる力をつけさせようと、親が連れていったのが始まりですね。幼稚園では名前を呼ばれても返事ができない程の恥ずかしがり屋さんだった



山田 琴未【ピアノ】 静岡県立吉原高等学校卒業。東邦音楽大学音楽学部音楽学科ピアノ専攻を卒業。在学中ウィーンにてヨハネス・マリアンに師事。ピアノを春日洋子、中村史子、杉山美穂子の各氏に師事。現在、東京・埼玉・神奈川の関東を中心にピアノ講師をしている。クラシック協会会員。

た「私が、ヤマハのグループレッスンでは生き生きと歌ったり、弾いたり。平気で返事もしていたから、自分に自身をつけさせるために」と、親に薦められたジュニア科へ進級して、もちろん私も続けたかった。その後「辞めたい」とか「嫌だ」と思った事は二度もなかったですね。特にアンサンブルが楽しくてグループレッスンは小学6年生まで続けたし、ピアノの個人レッスンや合唱団ジュニアミュージカルコース、最後にはドラムまで手を出す始末(笑)とにかく音楽漬けでした。ヤマハ音楽教室に通っていたおかげで、音楽には自信が持てたけど、人と話しているのは、あまり得意じゃなくて、恥ずかしいから歌でこまかしく喋るのかな。
西川 その頃から歌なんですかね。小学校の低学



鬼太鼓座

走り叩く 舞う

富士の山

2000年より活動の拠点を富士山のふもと富士市(宮島)に移し、国内外で幅広く活動している「富士の山 鬼太鼓座」。
2月のロゼシアターでの公演を前に合宿所を訪れ、ある1日の座員の生活を取材しました。
ステージでは決して見る事のできない座員の様子が満載の1日密着レポートをお届けします。

鬼太鼓座(おんでござ)は静岡県富士市、富士山のふもとにて合宿生活をし、国内外にて幅広く活動中。

1969年、亡き田耕(でん・たがやす)代表の構想のもとに集まった若者達により佐渡で結成。1975年、アメリカのボストンマラソン完走後、そのまま舞台上に駆け登り、三尺八寸の大太鼓を演奏するという衝撃的なデビューを飾る。小沢征爾指揮のボストン交響楽団との共演などはさみ、世界各地にて公演を続け、和太鼓を中心とした圧倒的な音楽で世界中の人々から絶賛を浴びる。

「走る」と「音楽」とは一体であり、それは人生のドラマとエネルギーの反映だという鬼太鼓座独自の「走楽論」。その持論を強烈にアピールしたのが、1990年のカーネギーホール公演を皮切りにニューヨークを出発、1993年11月12日の同ホールでの完走帰還記念公演まで、1万4910kmを走破した前人未踏の「全米一周完走公演」だった。

亡き田耕前代表に追悼の意を表する為、2002年4月11日から5月19日まで鬼太鼓座発祥の地である佐渡を出発、故郷の浅草を経由して、現在の本拠地である富士市まで走りながら公演を行う「田耕追悼イベント 鬼太鼓座マラソンライブツアー」を敢行。新潟から富士までの約600kmを走り抜き、新たなる旅立ちへの太鼓を奏でた。

21世紀も 富士の山 鬼太鼓座 の挑戦は続く

鬼太鼓座公式ホームページ
URL <http://www.ondekoza.com>



鬼太鼓座代表 松田 惺山氏

鬼太鼓座 一步一步

「うわーっ! かい富士山!」数年前鬼太鼓座が富士市で公演を行った時、新富士駅からロゼシアターへ向かうタクシーの中で、思わず叫んでしまったのを昨日の事のように憶えています。

二〇〇一年四月、創始者・田耕を失うという大きな苦難に直面した鬼太鼓座ですが、二〇〇一年からは「第五期・富士の山 鬼太鼓座」として新たな道を歩み始めました。今年七月、田子の浦で戦後、富士塚にお参りしてから富士山頂まで駆け登って奉納演奏を行い、「富士の山 鬼太鼓座」を名実共に実感することができたことは、この上のない喜びです。

今後の富士市での活動としては、学校公演等のボランティアを積極的に展開する事や、アマチュア太鼓チームとの交流、「世界太鼓フェスティバル」を実現させ、富士市を「太鼓のまち」にする。等々、鬼太鼓座の想いは膨らむばかりです。富士市の皆さん、これからも宜しくお願いします!



1日お疲れ様でした!! ※編集後記(ロゼネット)もお楽しみに。

19:00

夕食

メニューは、ごはん、湯豆腐、梅干し、いわしとさんまのしょうが煮、かぼちゃ煮(津村さん写真右下)よりさし入れ。

和気あいあい、おいしそうに食べてました。

夕食後はフリータイム。

15:30

ランニング(約14km)

午後は激しい雨の中のランニングとなり、各自自分のペースで走る。田子の浦灯台付近までの往復。約15分、2時間ほどで合宿所に戻ってくる。

(40km走る時もあるという)。

ゴール後、夕食までフリータイム。

洗濯や三味線の練習etc.



8:00

朝食

この日の食事当番は、「得意料理はバヤシライス」という最少の小澤さん。

メニューは、ごはん、みそ汁、納豆、らっきょう、わかさじ、漬け、ハヤシライス、夕食の(こり)。



7:00

筋トレ

2人1組で腹筋、背筋、腕立て伏せ等黙々とトレーニング。



6:00

準備体操・ランニング(約7km)

まだうす暗い小雨の中、純々と座員は合宿所から出てきて、念入りに準備体操を行い、富士川緑地をランニング。走るフォームがしっかりと見られる。

ランニングの途中、海に向かひて笛の練習。



13:00

昼食

メニューは焼うどん、らっきょう、柿(こ)はん。みんなおかわりしてました。

昼食後はフリータイム。



10:00

自主練習・映画鑑賞

各自わかれて自主練習。太鼓チームは台湾公演で演奏する新曲を練習中。

今日の映画は司馬遼太郎原作/篠田正浩監督の「暗殺」。

モノクロでシブかった。



9:00

お勉強タイム(本読み・書きとり)

みんな左手で書き取りをする。鬼太鼓座では食事もすべて左手で食べる。これは左右のバランスをとるためと何事でもいねいに物事に取組む姿勢を養うためとのこと。

この日の本読みは水六輔の「六人」でした。



ZA ONDEKOZA LIVE TOUR 2003-2004

鬼太鼓座 公演情報 『同心連心』

2004年 2/21(土) 大ホール 開場/18:00 開演/18:30 入場料/一般 4,000円 学生 2,000円

「同心連心」は中国語で「心のコミュニケーション」という意味が込められています。皆が手と手を取り合い、以心伝心ながら優しさ・安らぎを持ち合おう! そんなメッセージを和太鼓を通じて伝えたいと願っています。

演目

第一部
三国幻想曲03
三味線曲弾き
鬼太鼓麴子〜竹の巻
打つ八丈

第二部
竹採姫(たけとりひめ)〜竹取物語より
新剣玉小曲
尺八
大太鼓
屋台麴子
酒屋唄

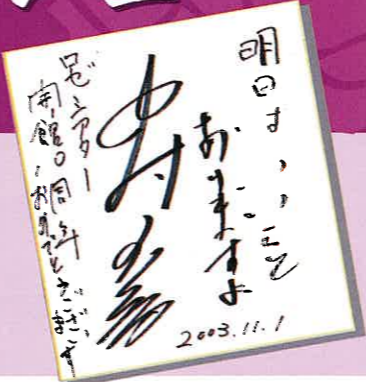
チケット好評発売中!!



ロゼシアター開館10周年記念事業

中村玉緒トークショー

～明日はいいことありますよ～



富士市文化会館 ロゼシアターはおかげさまで開館10周年を迎えました。平成5年11月1日オープン以来、多くの団体・市民の方々にご利用いただき、大・中・小の各ホールでは音楽会・演劇・式典等が行われ、展示室では市民の皆様の絵画・書・写真・陶芸など毎日のように開催されており、これまで会館利用者数は延べ458万人を数えています。

そこで今回、記念事業としてテレビ・舞台上で活躍される人気女優中村玉緒さんを招き、トークショーを開催し観覧希望者2075通から抽選により800通1600名の方が玉緒さんの愉快なおしゃべりを楽しみました。



バラエティーに出演するように
「たのび」さんのおかけです。オープニングを飾りますのは歌の披露で登場した玉緒さん。ご自身がデザイナーした着物姿で、テレビで拝見するそのままの振る舞いは幕開けから来場者に好感を与えました。「それまでは勝新太郎の妻として女優らしく品良く振舞っていたんですが、明石家さんまさんの「さんまのまんま」に初出演した際、緊張のハプニングがすべてオンエアされてしまったことからバラエティーの仕事がはじまりました。以来さんまさんは私をお母さんと呼んでくれますし、水川きよ子さんや浅田美代子さんなど、いつも若い人に囲まれています。おもしろいです。」



パチンコは私の安定剤
ご存知玉緒さんは大のパチンコファン。「芸は身を助ける」と言いますが、パチンコで負けたことはありませんが、退屈をしたことがありません。

健康法は寝ること
その日のことは何もかも忘れて寝てしまうことです。そしてまた次の日考えるようにしています。主人(勝新太郎)が亡くなつてすこしふとりまして、風邪をこじらして熱が出て食事が出来なかったときに、友達から綺麗にたねと言われ、その時の食事の量を今も続けています。「私はメモ魔なんです。大切なものはすぐにメモしておくんですよ。次の日やることは全部メモしておくんです。その紙を鏡に貼っておくとか、履いてく靴に入れておくとか、忘れないようにしておくこと、これまたよく眠れるんです。これも私の安定剤ですね。」



人生は心(真心)です
人生で一番大切なものは、心(真心)です。主人も心(胸を叩いて)が大事だと、いつも言っていました。主人のことはいつでも思っています。本日は夫婦円満にいつも一緒がいいですね。失敗したのは主人と、いろいろな所へ出掛ければよかったと悔やまれます。いまと比べてどこにもいけませんから。人生は生きていく時に楽しく好きなことをやらなくては、主人ともう少し同じ時間を作っておけばよかったかな、なんて後悔しませんが、主人は認めてくれました。それがいつまでも主人が心の中で生きていこうと願っています。



満席の会場からは玉緒さんの半生に感銘を受け、惜しめない拍手がいつまでも続いています。これからのますますのご活躍をお祈りします。

長岡宏 略歴	
1960	安宅賞(東京芸術大学)
1963	東京芸術大学(油絵)専攻科修了
1961~66	独立展
1968~69	フランス留学
1966・76・81・83・87	現代日本美術展
1975	ジャパンアートフェスティバル
1978	現代の多様な表現展
1980・82	日本国際美術展('80佳作賞)
1981~83	明日への具象展
1981	静岡文化奨励賞
1983	「アジアの中の日本展」パリ展
1988	現代日本美術展in NEW YORK
1992	現代の絵画「表現への挑戦展」
1998	岸田彌生の時代礼とその後展(茨城県近代美術館)
1999	長岡宏 回顧展(静岡県立美術館)
2000	文化奨励賞受賞者展(秋野不矩美術館)
2002	長岡宏 代表作展(浜松 平野美術館) 第19回個展(山形美術館)
	その他出品多数



●様々な「公募展」が全国各地にありますが、魅力ある公募展とは。以前は、いわゆる団体展というものが主流であったわけですが、ある時期から制約のようものが生まれてきて、時代に見合わなくなってきました。そんな時に新聞社のような民間企業や美術館、町おこしをからめ市町村などが公募展を主催するようになってきました。美術とは本来「創作」

ということだから、どんな時代とともに変わっていく、また今はそれが急速化しています。このような現状の中、旧来の体制のままでは若いひとにとって魅力は今ひとつであると思います。逆に流派にとらわれず、欧米の新しい傾向に目が向いてしまつのは自然であり、この方が盛んで、活気がありましたね。私も、当時日本を代表する現代美術展と言われた、毎日新聞社主催の毎日現代展に出品したことがあります。やはり私にとつては、賞金ももちろんですが、ある状態にたどり着いても、また次が見えてしまえば前進してしまふ。際限のない、常に変化し続ける現代美術は魅力があります。

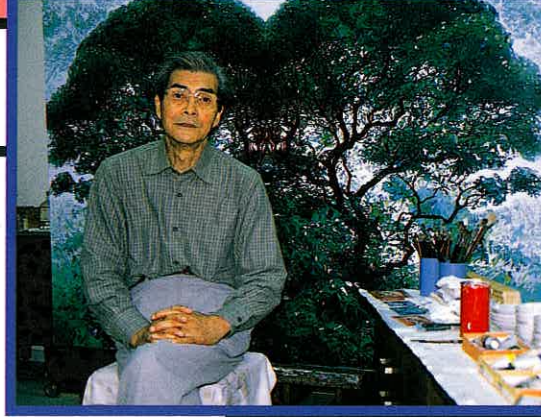
●公募展としては第一歩を歩んだ当展ですが、特徴づけるためにも、今後継続していく上で、どんな点を考慮していけばいいでしょうか。静岡県は比較的オーソドックスです。県内でこれほど「現代」を前面にうちだしている公募展はあまりないと思います。年齢制限の三十五歳は若いですが、名を残した作家の中で、三十代で自分のピークの作品を作る



●美術に対する考え方(美術観)
現代は消耗の時代です。流行や有名芸能人も消費されます。以前は、ある程度自分のスタイルを確立すれば生涯その線で続けられたのですが、現在、変化に富む現代美術の世界では、大衆から飽きられる美術の流れについていけないという状態に

●美術の道に進むことにしたきっかけは？
子供の頃から絵が好きでしたね。学生の頃はみんなの前で表彰されたこともありました。医学の道と迷った時期もありましたが、浪人して芸大に入ったことは人生の中でも大きな決断でしたね。

今年で二回目をむかえるロゼシアター公募展「新進アーティスト作品展—Art Generation 2004—」。前回の立ち上げのときからご協力いただき、引き続き審査をしていただく長岡宏さんにアトリエでお話をうかがいました。



家は意外と多。失敗を恐れずに新しいことに是非挑戦してもらいたいですね。「創作する」ということは「新しい」ということだと思っただけです。「新しい」とは美術の場合「現代」だと思っただけです。たとえば、大学に進学してから十年のキャリアがあるとします。その十年の中に新しいことを支える美術的要素が必ずあると思いますので、是非がんばってほしいですね。(談)

新進アーティスト作品展 作品募集中!

応募用紙受付期間 2004年2月24日(火) 必着

展示期間 2004年3月12日(金)~21日(日) 10:00~19:00 ※15日(月) 休館日

ロゼシアター展示室

新進アーティスト作品展



掲示板

プレイガイド変更のお知らせ

平成16年4月1日以後の公演チケットは「ロゼ・チケットセンター」、「マルサン書店沼津仲見世店」、「ユニオンテラス富士宮店」、「カワセ書店富士宮原店」、及び「チケットぴあ」のみでの取り扱いとさせていただきます。

※「チケットぴあ」でのご購入方法について

- ①直接、取扱店舗（セブン・イレブン、ファミリーマート他）で購入。
- ②電話でご予約のうえ、予約番号を持って取扱店舗で購入。

052-320-9999
052-320-9966 (Pコード専用)
（各公演チラシに掲載のPコード番号が必要となります。）

詳しくは、ロゼチケットセンターまでお問い合わせください。

ミュージカル製作講座 Vol.3 受講者募集



ミュージカル製作の勉強をしてみませんか？

日程	平成16年 2月28日(土) 14:00~18:00	2月29日(日) 10:00~17:00
	3月13日(土) 14:00~18:00	3月14日(日) 10:00~17:00
	3月19日(金) 18:00~21:00	3月20日(土) 10:00~19:00

講師	三浦克也(劇団Theater Japan代表)
内容	「脚本の書き方」
会場	ロゼシアター会議室 他
対象	以下の条件を全て満たしている方 ・ミュージカル、演劇に興味がある ・富士市に在住or在勤or在学中 ・高校生以上 ・全日程に参加できる方
定員	20名(応募者多数の場合は抽選)
募集期間	平成16年 2月1日(日)~2月8日(日)
申込み方法	ロゼシアター1階財団事務室備え付けの申込み用紙に必要事項を記入のうえ直接持参すること。
お問い合わせ	(財)富士市文化振興財団 事業課 企画広報係 TEL 0545-60-2512

2004 MAYコンサート 出演者募集

毎年5月に開催している新人音楽家による演奏会「MAYコンサート」。13年目を迎える「MAYコンサート」も歴代出演者118名を数え、富士市出身の若手音楽家の登竜門として定着してきました。今春卒業を迎える新人音楽家の皆様！是非ご出演ください。詳細は下記の通りです。

【公演日】平成16年 5月30日(日)/本番・29日(土)/リハーサル
【対象】富士市出身で、平成16年3月に音楽大学、短大音楽科を卒業される方(但し、大学院・短大専攻科に進学される方を除く)

【お申し込み方法】
ロゼシアター1階事務室備え付けの申込み用紙に必要事項を記入の上、郵送または直接持参。

【申込締切】平成16年 2月29日(日)
お問い合わせ
(財)富士市文化振興財団 事業課 企画広報係 TEL 0545-60-2512



ふじ少年少女芸術劇場 小学校学校コンサート

アフリカンミュージック&ダンス アクロバ

10/14 (火)	田子浦小学校 岩松北小学校	10/15 (水)	富士第一小学校 岩松小学校
10/16 (木)	富士南小学校 富士中央小学校	10/17 (金)	伝法小学校 富士第二小学校

富士市内すべての小学校(25校)を3年間かけてまわる小学校学校コンサート。今回は「アクトバ」という西アフリカ、ガーナからやってきた5人のメンバーによるアフリカンミュージック&ダンス公演。どこの小学校でも、メンバーの明るく陽気な笑顔とノリの良いダンスで、体育館は大変な熱気と盛り上がり!アフリカの珍しい楽器紹介やガーナについてのお話にも興味津々といった様子の児童でした。



ロゼネット

おんこせ 鬼太鼓座入門
「合宿所」のヒミツ

- ♡くつがきちんとそろえて並べてある玄間。
- ♡きれいに整理整頓されている台所。
- ♡よく研がれている包丁。
- ♡清掃のゆき届いた室内。

日頃からの生活、物事の考え方やひとつの積み重ねが彼らのステージでのパワフルなパフォーマンスの原動力となっていました。そして座員のみならず、スタッフも笑顔と心の優しさに、早朝からの取材の疲れも飛びました。カプチーノをいただきました。

ロゼ・チケットセンター ☎0545-60-2500 富士市藤原町1750番地 9:00~19:00

プレイガイド	●おみや富士中央店 ☎0545-60-4567 ●富士市民センター ☎0545-61-6262 ●ラ・ホール富士 ☎0545-53-4300 ●タンザン楽器富士支店 ☎0545-52-1586 ●高島屋富士松岡S ☎0545-60-1150	●カワセ書店 富士原店 ☎0545-71-9592 ●マルサン書店沼津仲見世店 ☎0544-24-7160 ☎055-963-0360	●ユニサービスカウンター 吉原店 ☎0545-51-9027(代) ●ユニサービス富士高店 ☎0544-24-6777(代) ●吉原商店街にある〜ホール ☎0545-51-5227
--------	--	--	--

ロゼシアターホームページアドレス <http://rose-theatre.jp/> e-mail info@rose-theatre.jp
みなさんとロゼを結ぶホットライン! イベント情報・館内情報・トピックスなど盛りだくさんの内容です。

エッセイ

ヨーロッパからの Air Mail



本多まき (フォルテピアニスト)
桐朋学園大学短期大学部芸術科卒業および同大学研究科修了。渡独、スイス・バーゼル国立音楽大ピアノ専攻クラス在籍中にフォルテピアノに興味を持つ。
その後、フォルテピアノをドイツ・フライブルク国立音楽大学、パリ国立高等音楽院に学び、ともに最優秀の成績で卒業する。現在、同音楽院室内学科に在籍。これまでに、ピアノを牧野真、福田美代子、J.J.デュンキ、J.エブリ、故エディット・ピット・アクセンフェルト各氏等に師事。フォルテピアノをロバート・ヒル、パトリック・コーエン各氏に師事。「'93 MAYコンサート」出演。平成11年度、楽器の演奏「バロック古楽の世界的風」ギャラリコンサート出演。平成12年、平成14年、ロゼシアターにてフォルテピアノによるソロコンサートを行う。その他、室内楽、ソロをはじめ積極的に活動している。



「フィンチコック」鍵盤楽器博物館

昨年六月、私はイギリスのセント州にある小さな鍵盤楽器博物館を訪れました。今やユーロスターのお陰でパリ・ロンドン間が約三時間で行ける時代。私もこのユーロスターを使ってイギリスに行くことにしました。パリにはいくつかの駅があり、行き先によって出発する駅が変わります。このユーロスターは北駅から出発します。何と三十分前までに、飛行機と同じような搭乗手続きをしなければならず、ますます



外国に行くのだという気持ちを盛り上げます。出発して二時間ほど経ったころ、車内アナウンスが「只今より海底トンネルに入ります。」と告げて、それから辺りは真暗になります。ドーバー海峡の下をくぐる時間はずかしく二十分程度。せつなく海の中にお魚も見えないなんて。とがっかりしたのは私だけだったようです。そしてトンネルを抜けるとまさにイギリスなのであります。今回はロンドンまでは行かずに、「アックスフォード」という駅でローカル線に乗り換えました。ホレンガに羊、というイギリスの風景の他にさすが英国風と思わせたものは、駅のキオスクにまで紅茶の入った大きなやかんが置いてあり、注文するとミルクまで入れてくれるところでした。お茶好きの私には大変便利でした。列車がホームに入ると、と、扉がたくさんありすぎて、どこから乗ってよいやら、全くわかりません。よく観察すると、何と座席ごとに手動式の扉がついているのではないですか。国によっていろいろ違うものだと感心しながら何とか電車に乗り込み目的地までたどり着いたのでした。

このフィンチコック博物館は、もともと十八世紀にお城だったものを修復したもので、大きなイングリッシュガーデンにホレンガの当時の典型的なスタイルが残っています。ピアノのリチャード・バーネット氏が一九七一年に買い取ってから、現在のような博物館となりました。コレクションにはクラビコード、チェンバロ、オルガン、そして数々のとても貴重なフォルテピアノがあり、鍵盤楽器の歴史をたどることが出来るようになっていきます。さらに、全ての楽器が現在でも演奏可能という素晴らしい状態で保存されているので、それらを演奏するというとても貴重な体験をすることが出来ました。

この名物はバーネット氏が大広間で毎日三十分ほど演奏を交えて楽しい楽器講座をするところでしょう。私もこの小さなパフォーミングにお付き合いし、「今日は日本の演奏家が...」などと紹介されながら楽器を演奏させていただきました。イギリスは何となくアファクニティーが大切な様子で、この博物館鑑賞プログラムにもお茶の時間も組み込まれて



ここでバーネット氏が毎週レクチャーをする。

背景Photo:パリ・ノートルダム寺院